

令和4年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	地域の伝統文化を生かした共同教育推進事業
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 教授・洞谷亜里佐
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) 上越市企画政策課・文化行政課 (担当者職名・氏名) 阿部浩二・草間敬子
4 事業の趣旨・目的	平成 22 年度から日本の伝統文化や造形活動を体験する講座をもうけ、暮らしの中での伝統を楽しむ活動を小林古径美術館や大学と連携して行ってきた。具体的には町家再生に絡み左官職人からの漆喰や土壁の講座、蒔絵師の講師からの漆の講座、日本家屋と文化について高田町家を検証しての講座、染め職人による草木染め講座、和紙職人による自然素材と生活の講座など地域の文化を見直す実技体験を、雁木町家の活用による学生や一般市民への教育普及活動へと広めてきた。活動の仕組みは、上越教育大学の教員と大学生が、職人の指導を受け、地域のものづくりや伝統文化活動に関わる。その後、大学企画によるワークショップを行うことで、生活に息づく鑑賞教育を市民や教育現場に提案する。このように、伝統文化教育の講座を地域と大学との連携で展開することにより、町家という地域文化や自然環境を生かした特色ある学習プログラムを開発することで教育における文化の伝承を目標とする。
5 事業活動報告	<p>① 上越市企画政策課・文化行政課から高田の歴史・文化を生かしたまちづくりについて2回の講義(10/5, 12)をして頂き、その後学生たちが上越地域のお宝を教育現場や一般の方々の活用に向けて、マップに解説登録を行った。</p> <p>② 美術館との鑑賞教育の連携を行なった。 瞽女ミュージアム高田、小林古径記念美術館</p> <p>③ 地域人材(講師)や資源の活用を目的とした、地域の伝統文化を見直す活動を行った。参加者13名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月30日(日)小林康生氏の門出和紙工房の訪問し、素材についての講義と和紙すきの実践を行った。 ・1月11日(水)宇賀田正臣氏の「草木染めー藍染めー」ワークショップを行った。(学内に向けてのみのワークショップ)参加者20名 ・1月27日(金)山崎宏氏の講義を行なった。「日本美術文化論ー古代蛇信仰と日本文化」日本家屋の生活に息づく伝統文化についてzoomで講義を受ける。参加者8名
6 本事業で得られた成果	<p>地域社会と学校教育を融合させたものづくり教育を広く提示する事ができた。今回は一般市民向けのワークショップは控え、学生、教員、職員関係者のみの参加とした。</p> <p>① 日本家屋の特徴を学ぶ事で町家の暮らしから感じる身近な日本文化に気づくことができた。</p> <p>② 文化を通して地域の方々との交流が深まり、「地域の自然と文化、雁木町家と物づくり」についての見識を高め、教育者としての資質を向上させることができた。</p> <p>日本の伝統文化理解教育の意義を明確化することにより国際的な意識が高まった。留学生にとっては日本の文化や高田の地域性について認識することができた。また、母国の文化との比較分析を積極的に試みる機会になった。</p>

7 その他(成果物等の名称)	
----------------	--

※事業の実施風景を写真撮影し、本報告書と併せて提出してください。

以下、実施風景の写真
(草木染め①)



(草木染め②)



(門出和紙①)



(門出和紙②)



(門出和紙③)

